

宗 教



慈広寺境内太田鍋島家廟所

いでいった。この貧しい旅の僧は九州を行脚していた弘法大師だったという。

また、徐福が上陸するときに押しわけてできた片葉のアシの落ちた部分がエツになったとも伝える。

3 千 人 塚

諸富橋の近くの川沿いに享保六年（一七二一）に建立され

た「南無阿彌陀佛三界萬霊等」と刻まれた一七〇[〃]程余りの石碑が建っており、地元では千人塚と呼んでいる。

享保年間（一七一六―一七三五）の大飢きんには疫病がまん延し餓死者が多数出たといわれ、これらの人々の霊を慰めるために建立したと伝えられている。

一人の旅の僧が筑後川のほとりにたたずんでいた。打ち続く凶作に人々は食物や水を求めてさまよっていた。また、戦国時代にこの辺一帯で合戦があり、討ち死にした者が多数埋れており、村人は幾度となく白骨や火の玉を見たという。僧はこの村に宿る怨霊を追う決心をし村人と相談し「三界萬霊」と刻んだ石碑を建て、餓死者をはじめすべての霊を慰め、再び流浪の旅を続けたという。

また、一説には往昔、斬罪の地といわれ、その数が千人に及んだので千人塚というとも伝える。

碑銘

莫謂西方遠 南無阿彌陀佛三界萬霊等 唯須千念心 享保六歲^次辛丑九月十五日 本願施主圓達



千人塚（石塚）

宗 教

本町の町民はほとんどが仏教を信仰し、各々の宗派に所属し、檀家寺をもち、また一方では氏子として神社を信仰している。しかし宗教的感情はその中で満足する事が出来ず、私達の祖先は神社、寺院の他に数かぎりない信仰の対象をつくり崇拜してきた。

神殿裏には多くの石祠や石塔がならんでいる。これは路傍や部落に散在していたものを明治初期の太政官布告以後に寄せ集められて祭ったものである。

また、町内を歩いてみると部落には無格社神社や観音堂があり、路傍には地藏さんや大黒さん、えびすさん、庚申塔等の石塔に出合う。これらは一般庶民が生活の中からおこつてくる心の願いをこめて建てたものであろう。これらの石塔からは古い時代の民衆の宗教的な心情が推察されるものである。

一 佛 教

要 概 (一) 概 要

概 本町は筑後川流域の部落の発展とともに、住民は仏教に関心をもち、その信仰は厚く、この沿岸地区に仏教の

道場たる堂宇^{どうう}が建立されたことがうかがわれる。しかし各寺の創設年代、沿革等は不明な点が多いが、創建当時の宗派から転宗されて現存する寺や廃寺になっている寺院等もある。

さかのほれば織田信長や豊臣秀吉は寺院を自分の支配下におくことに努め、徳川幕府にいたっては各宗に法度^{ほつど}を下し、寛永九年（一六三二）と元禄五年（一六九二）に全国的に本末帳の作成を行い、本山、本寺、末寺に対する絶対的統制を柱とする本末制度を確立させ、幕藩体制の政治支配の中にくみ入れた。

また、寛永十二年（一六三五）に寺社奉行を設け、寺社及び寺社領に関する行政指導と寺社、僧尼、神官に対する監督を行なった。

寛永十五年（一六三八）の島原の乱平定後、同十七年（一六四〇）には幕府に、寛文四年（一六六四）には諸藩に「宗門改役」がおかれ、戸ごとの宗旨調査がおこなわれた。

「宗門改」には婚姻、奉公、旅行、移住等には必ずキリシタンでないことや檀那であることを証明する「寺請^{てらうけ}証文」を必要とする寺請制度と戸籍の役目をもつ「宗門人別帳」の制度がとられた。江戸時代以後は各家ごとに特定の寺院に所属することが義務づけられ、寺檀制度が確立された。各宗の寺院も江戸時代に多く建立されたり、天台宗寺院が浄土真宗寺院に転宗したりしている。

このように江戸時代になって寺院は本末関係や寺檀制度によって統制されたが、このために寺院は安定した地位を保証されることになった。

(二) 各宗各寺院の概観

1 浄土真宗

正しくは「浄土真宗」といい、古くは「一向宗」「門徒宗」などともよばれ、親鸞を開祖とする。親鸞は浄土宗の祖源空を師としたが、五十二歳の時常陸^{ひたち}国稲田で「顕浄土真実教行証文類」を著わしたのを開宗とする。同書に「大無量寿経、真実之教、浄土真宗」としてあるが、浄土門中の真実の教であるところから浄土真宗を宗名とするようになった。

関ヶ原戦の際に、西本願寺は鍋島勝茂の依頼に応じて妻女や竜造寺高房の身辺の保護を約束した。戦後その恩に報じ願正寺を建て元和三年（一六一七）には、領内真宗寺院をすべて願正寺末とした。

本願寺派 明円寺（加与丁）

一 山 号 光雲山

二 本 尊 阿弥陀如来

三 開創年代 天正九年（一五八一）

四 開 基 元祐教師

- 一 山 号 大堂山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 寛永十二年（一六三五）
- 四 開 基 泰源教師
- 五 住 職 清谷 法水（十一代）
- 六 沿 革

本願寺派 礼敬寺（大堂津）

昭和四十三年二月一日本堂及び庫裡が新築され、境内地の整備等が行なわれた。

第八世明応の時代、北陸の地より親鸞聖人御影像一基来迎、その厨子とともに本堂に安置されている。

寛政九年（一八九七）に山門が建立された。

第四世宗益寛保元年（一七四一）浄土真宗に帰依し、光雲山教楽寺と号した。

当寺は豊前の住人、僧崇伝禅門をおこし、この地に草庵を建てた。

- 四 開 基 崇伝教師
- 五 住 職 藤谷 法隆（十五代）
- 六 沿 革



礼 教 寺

- 五 住 職 西谷 智章（十七代）
- 六 沿 革

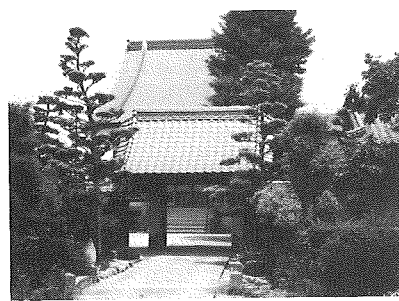
当寺は元祐教師によって創建され、第三世泰円の時、明暦四年（一六五八）良如上人より蓮師御影をうけ、第四世孝意は延宝三年（一六七五）寂如上人に願って祖師、太子、七高僧の御影を、つづいて同八年には木仏の下附をうけて寺号の公称を許された。

明治七年（一八七四）佐賀の乱兵火によって本堂、庫裡を焼失したが明治十二年（一八七九）第十四世靈妙によって四年の歳月をかけて同十六年現在の本堂が再建された。

七間四面の見事な本堂は当時建築の最高の技術が施されている。幸いにして本尊、延宝二年（一六七四）作、絵像、並びに元禄時代から記された過去帖は焼失を免れ現存している。

本願寺派 教楽寺（大堂村）

- 一 山 号 光雲山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 正徳三年（一七一三）



教 楽 寺



明 円 寺

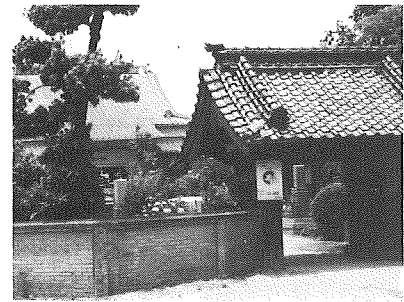
当寺は僧泰源教師によって創建されたことになっているが、その僧以前は不明のため泰源教師を第一世とした。現在地はもと真宗正蓮寺末正福寺があったところで、明治七年頃までは正福寺住職林靈源師であったが、その後鹿兒島か熊本方面に移転されたので、大堂内にあった礼敬寺が第八世観月住職時代、明治九年頃現在地に建立した。

本願寺派 法泉寺（橋津）

- 一 山 号 瑞鳳山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 天文年間（一五三二—一五五四）
- 四 開 基 善祐教師
- 五 住 職 池田 法雨（十五代）
- 六 沿 革

三養基郡坊所村の領主池田藏人助義幸（坊所肥後守）の子坊所藏人大輔は、竜造寺隆信につかえ、その一族西村、中村、馬場、吉田等三百余名とともに橋津村に陣し、大友勢の水軍をむかえて奮戦大いに戦功をたてたが戦死者を多くだったので、その一族の菩提をともらうために、その子刑部左衛門善教出家して善祐と号し当寺を創建した。

本堂は享保十二年（一七二七）第七世靈山のときに再建されたものであったが、白蟻と台風の被害で、昭和四



法 泉 寺

十八年三月本堂および庫裡が改築された。

本願寺派 西覚寺（徳富二区）

- 一 山 号 瑞徳山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 天正十二年（一五八四）
- 四 開 基 正善教師
- 五 住 職 吉田 正道（十五代）
- 六 沿 革

当寺の祖先は藤原鎌足に発し、その孫吉田因幡守正広は天文年中（一五三

二—一五五四）龍造寺の家臣となり各所の戦いに参加、戦功あり大いに武門を立てて重用された。

その子吉田左衛門大夫正善は病気のため、龍造寺隆信と島原の乱に出陣できなかつたが、弟吉田又次郎正行は、十七歳の若さで出陣し、隆信戦死の際又次郎も討死した。

後正善は主君の菩提を弔うため出家し正善と号して一字を建立した。今もなお隆信公の位牌を安置してある。

現在の本堂は第十世照道教師の代、弘化二年（一八四五）に建立されたもので、八間四面の堂々たる建築物である。第十二世法爾は鐘楼を建立した。

本尊阿弥陀如来は渡辺康雲の作で寂如上人より下賜されたものである。吉田家の系図、古文書等が現存して



西 覚 寺

いる。

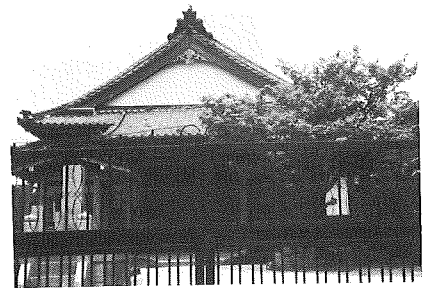
本願寺派 蓮光寺（諸富津）

- 一 山 号 宝池山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 慶長年間（一五九六―一六一四）
- 四 開 基 超岸教師
- 五 住 職 藤本 智水（十四代）
- 六 浴 革

当寺は本堂七間四面、庫裡七十余坪を有し、本尊阿弥陀如来は康雲作といわれていたが、火災にあい由緒は詳びらかではないが、超岸教師は天文（一五三二―一五五四）の頃より浄土真宗に帰依していた。

過去帳によれば慶長年間、一字を建立して教化にあたっていた。第二世休岸、延宝二年（一六七四）木仏、寺号の御免書及び太子、七高祖御影を寂如上人より賜った。第三世超海、享保十五年（一七三〇）祖師御影をうけた。明治二十三年（一八九〇）鐘樓が建立され、大正十二年（一九二二）本堂屋根の葺替を行った。

宝物としては親鸞聖人真筆一幅、蓮如上人の六字名号一幅、本如上人真筆一幅等があつたが昭和二十年八月五日の戦災で本堂、庫裡全焼のため焼失した。



蓮 光 寺

昭和三十年本堂、庫裡等が再建された。

地獄絵図八幅は疎開により焼失をまぬかれた。

本願寺派 正立寺（諸富津）

- 一 山 号 日溪山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 天文五年（一五三六）
- 四 開 基 了益教師
- 五 住 職 日溪 哲朗（十八代）
- 六 浴 革

当寺は中興時代記録等一切焼失し、詳つまびらかではないが了益教師（俗名藤

原秀時）の開基といわれている。藩政時代には狩獵のときや巡遊の途次には藩主が参拝、休息されたといわれている。

本堂は明治十七年（一八八四）第十五世洞観教師により改築され、総ケヤキ造りで大いに宏壮をきわめた建物であつたが、昭和二十年八月五日の戦災で鐘樓門のみを残して焼失した。その後本堂庫裡も再建された。

鐘樓門は相当古く精巧をきわめ、神社の門ではないかといわれ、修理もなり偉観を呈している。



正 立 寺

本願寺派 西蓮寺(太田)

- 一 山 号 竜田山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 天文七年(一五三八)
- 四 開 基 了俊教師
- 五 住 職 竜田 誠哉(十八代)
- 六 浴 革

当寺の沿革は詳びらかではないが、肥後より来て出家して了俊と号し、堂宇を建立した。

当地方においては古寺の一つである。

宗祖御真影は延宝四年(一六七六)に下附され、六字名號は本願寺第十四世寂如上人の添書がある。現在の楼門は明治五年(一八七二)慈広寺より移されたものである。

寺宝として過去帖、古文書等がある。

本願寺派 専念寺(小杭)

- 一 山 号 無量山

- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 永禄十二年(二五六九)
- 四 開 基 玄金教師
- 五 住 職 小杭 正見(十八代)
- 六 浴 革

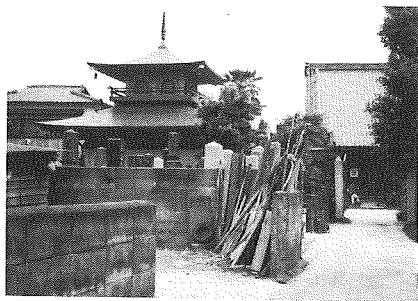
玄金教師は大和国式下城主兵部小輔、小杭丹後守源助の嫡男で、幼少の頃より文武にすぐれ、石山本願寺の戦に参加、龍造寺隆信に招かれて現在の地を拝領、堂宇を建立した。

万治年中(二六五八―一六六〇)清円教師の頃より塾を開き明治初期まで子弟の教育にあたった。

本尊の阿弥陀如来は東川副清行寺(西光寺)より明治時代に移されたものだといわれている。鍋島藩主から六枚屏風等を拝領したが、昭和二十年八月五日の戦災にあいすべて焼失した。昭和二十五年四月本堂、庫裡を再建、昭和五十六年には庫裡が改築された。

本願寺派 妙光寺(為重)

- 一 山 号 無量山
- 二 本 尊 阿弥陀如来



専念寺



西蓮寺

- 一 山 号 定良山
- 二 本 尊 阿弥陀如来

本願寺派 万福寺（東寺井）

友宗麟の援助依頼状」等多数の古文書や旧国主松平丹後守寄贈の「金光明最勝王經（全十巻）」が現存している。

その他、「甲斐家系図」「寺井末代定置状」「年中雜記録」「御舍利」「名号入りあわび」「懸仏」「本尊再興記」「大

六年（一五八八）六月一日卒した。代々長寿者で知られている。

本尊の阿弥陀如来は鎌倉仏で源信僧都の作といわれ、頗る精巧を極め、有名である。

肥後より来て万行寺で修学、その後肥前に住し、出家して教明と号し、荒蕪不毛の地を開拓し一字を建立。のち三畝二十一歩を拝領して光専教寺を開いた。当国真宗最初の道場といわれた。教明民部入道八十三歳の高齡で天正十六年（一五八八）六月一日卒した。代々長寿者で知られている。



光 専 寺

- 四 開 基 教明教師
- 五 住 職 甲斐 敏夫（十四代）
- 六 沿 革

- 一 山 号 護命山
- 二 本 尊 阿弥陀如来
- 三 開創年代 天文年中（一五三二—一五五四）

本願寺派 光専寺（東寺井）

楼門は為重家の門、鐘楼は新北神社の太鼓堂だったともいわれている。寺宝には「親鸞聖人御真筆の名号」がある。

当寺は中途火災のため建物、寺宝などごとく焼失した。本尊の阿弥陀如来は行基菩薩の作と伝えられ、きわめて精巧にできている。第二世正西教師のとき蓮如上人御影を准如上人より賜り、第四世正純教師は良如上人より寛文元年（一六六一）太子、七高僧御影をうけ、第五世宗純のとき田島を買入、祖師の御影、寺号の御免書を寂如上人より賜り、文政十年（一八二七）九月本堂を再建した。



妙 光 寺

- 三 開創年代 慶長年間（一五九六—一六一四）
- 四 開 基 正西教師
- 五 住 職 福島 五雄（十七代）
- 六 沿 革

- 三 開創年代 天文元年（一五三二）
- 四 開 基 慶昭教師
- 五 住 職 定良 縮往（十六代）
- 六 浴 革

慶昭教師の祖先は九州の探題職今川了俊より数代をへた義秋（信秋）の代に居城を建造し、姓を定良と改め、この地を領していた。

のち千葉氏との戦で戦死、その子満秋も船橋の戦で鹿江氏のために戦死した。その墓石は鹿江村にあるといわれている。満秋の子慶昭は父の死後僧侶となり城を寺院となし、定良山万福寺と号し、祖先の菩提を弔った。

開基の駿河守は法号を満福と称していたので寺号を万福寺と号した。

本尊の阿弥陀如来は春日の真作で駿河守の守御本尊で、当寺に本願寺の教如上人が止宿されてから、浄土真宗に改宗されたといわれている。

寺宝には「寺井由来」の記録文書等がある。

本願寺派 光徳寺（西寺井）

- 一 山 号 普耀山
- 二 本 尊 阿弥陀如来

三 開創年代 天正四年（一五七六）

四 開 基 西願教師

五 住 職 永島 玄城（十六代）

六 浴 革

西願教師は高木瀬の出身で真宗の教義に帰依し当地にきて一字を建立した。

第三世尊隆の時准如上人より寺号の御免書を賜り光徳寺と称した。

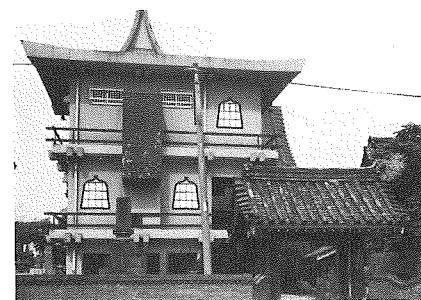
第五世宗雪正保二年（一六四五）十二月、太子、七高僧、准如上人等の御影を寂如上人より賜り、木仏の御下附をうけた。

第八世岱樹は元文四年（一七三九）三月楼門を建立、延享五年（一七四八）には蓮如上人御影を法如上人より賜り、本堂修築等中興の実をあげた。しかし失火のため全焼したが嘉永元年（一八四八）本堂を再建した。当時の建築技術の偉大さが残されている。

その外大中島に浄土真宗の説教所があるが、創設等は詳びらかではない。本尊は阿弥陀如来で地区の浄土真宗の信仰者によって創設されたものであろう。



光 徳 寺



万 福 寺

2 真言宗

真言宗は弘法大師空海が開いた宗派で、分別聖位經に真言陀羅尼宗とあるものによる。真言宗では一般仏教を顯教と呼び、自宗をつねに秘密仏教、略して密教と称する。

本宗では大日經と金剛頂經とを兩部の大經と称して正依の經典とし、これに蘇悉地經を加えて秘密三部經と呼ぶ。

興教大師覺櫻の開いた根來山に、大日如來の加持身說法を主張する頼瑜が出たので、その後の根來山の一派を新義と称するに對し、高野山や東寺を中心とし本地身說法を主張するものを古義という。

御室派 円光院 (福田)

- 一 山 号 宝珠山
- 二 本 尊 聖觀音菩薩
- 三 開創年代 不詳
- 四 開 基 不詳
- 五 住 職 小松 良哲
- 六 浴 革

当寺は三百五十年前の創建といわれているが、中興時代に火災にあい全焼



円光院

し一切の記録を焼失し事蹟を知る事は出来ない。現在の堂宇は昭和二年三月二十五日改築されたものである。脇仏としては薬師如來像弘法大師像が安置してある。

境内には元禄年中の六地藏等がある。

御室派 安竜寺 (西寺井)

- 一 山 号 金剛山
- 二 本 尊 薬師如來
- 三 開創年代 天平年中 (七二九—七六五)
- 四 開 基 行基菩薩
- 五 住 職 馬淵 良道 (六十四代)
- 六 浴 革

当寺は長福密寺といい、行基菩薩の草創といわれ、七佛薬師尊のうち隨一といわれている。行基僧正は筑州において一本の良材を得、これを滄海に放つて、この木の止まるところに仏像を造つて地方の平安をはかろうとされた。放流された尊木は寺井津に漂着したので、瑠璃光の像七尊(川副七仏)を刻んで七カ所に道場を開きこれを安置した。当寺はその造尊の場所である。

和銅四年(七一)行基菩薩の草創といわれる河上山実相院元觸内神通院(東寺井)は、旧藩時代は藩主龍造寺家、鍋島家の祈願所であったが、大正六年八月安竜寺に合併されたので古文書、薬師如來、青銅弁財天、不動



安竜寺

明王、弘法大師、愛染明王、十三仏、十二神、大国七兵衛筆の虎絵額、珍しい石造道祖神等がある。

御室派 多聞院 (為重)

- 一 山 号 不二山
- 二 本 尊 毘沙門天
- 三 開創年代 不詳(奈良後期)
- 四 開 基 行基菩薩
- 五 住 職 宇都 影光(三十五代)
- 六 浴 革

当寺も火災にあい記録一切焼失し詳びらかではないが、相当古く行基菩薩

の建立によるといわれ、鍋島藩主の祈願所で、毘沙門天像は行基菩薩の作と伝えられている。

脇仏としては、千手観音菩薩、不動明王、弘法大師像等がある。

境内には六地藏一對、室町時代作と推定される一石五輪塔の石造物がある

応安四年(一三七二)秋盛武太郎入道昌興の建立昌興寺、同年冬盛武主水介入道昌壽の建立昌壽院は大正三年当寺に合併された。



多 聞 院

善通寺派 吉祥寺末 勝浮院 (浮盃)

- 一 山 号 善祥山
- 二 本 尊 大日如来
- 三 開創年代 昭和二十四年十月
- 四 開 基 横尾龍弘
- 五 住 職 横尾 龍弘(初代)
- 六 浴 革

当寺は昭和二十四年十月西郷に新北教会を創立、昭和二十五年十二月仮御

堂並に庫裡を現在地に建立、昭和二十六年一月諸富教会と改め、昭和三十年三月勝浮院として寺格を得た。昭和三十八年八月現在の本堂並に庫裡を改築された。当寺には本尊の外大僧都法印補陀洛山阿運上人、権大僧都法印補陀洛山宥誉上人の碑石が合祀されている。境内は勝茂神社、聖人塚があったので、勝茂の勝と地名をとって勝浮院と号した。



勝 浮 院

各宗各寺院の概観

3 禅 宗

禅宗には、栄西禅師の臨済宗、道元禅師の曹洞宗、隠元禅師の黄檗の三宗があるが、中国における禅宗の初祖は達磨大師である。禅宗という時の禅は、達磨の伝えた禅法を指し、禅宗とは専ら坐禅の方法により見性成仏を

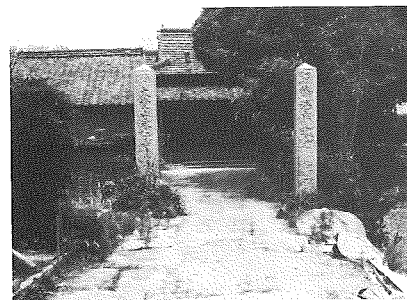
期する宗教で、己が心性即仏心なりと徹見する宗旨だから仏心宗とも呼ばれる。
 禅宗では教外別伝、不立文字の精神から所依の經典として特定のを定めないが、これは経論を全然用いないのではない。古くは達磨の時から楞伽經が用いられて二入四行の説があり、六祖慧能以後は金剛般若經が重視されて般若禪が唱えられた。そこで禅宗の經典観としては、榮西の「与えてこれを論ずれば一大藏經皆これ所依なり、奪つてこれを論ずれば一言の所依なきなり」というのが適切であろう。

臨濟宗 東福寺派 高城寺末 永仁寺（大堂村）

- 一 山 号 大堂山
- 二 本 尊 薬師如来
- 三 開創年代 不明
- 四 開 基 不明
- 五 住 職 糸山芝山代務
- 六 浴 革

当寺の開基は詳らかではないが、下大津の東光寺とともに相当古い寺であると思われる。

県立長崎図書館蔵の三藩県時代の各宗寺院表によれば、檀家数十五戸、住職馬場教道師とある。



永 仁 寺

臨濟宗 東福寺派 東光寺（下大津）

- 一 山 号
- 二 本 尊 薬師如来
- 三 開創年代 不明
- 四 開 基 不明
- 五 住 職 糸山芝山代務
- 六 浴 革

当寺の開基は詳らかではないが、天平年間（七二九―七六五）川副七仏薬師の一体をまつる薬師堂にはじまると思われる。

この川副庄、一木七仏薬師如来は行基菩薩の御作といわれ、楠一木で尊形七仏を作られ、参詣者は元木より参り、木の末で参り納めたという事で、川副七仏の一番の堂場が下大津の東光寺、二番が寺井の長福寺（安童寺）、三番は崎ヶ江の法源寺、四番は米納津の東光寺、五番は南里の正定寺、六番は新郷の本願寺、七番は袋村の寒若寺といわれ、薬師如来像が安置されている。

現在の堂宇は昭和六年五月に改築された。寺宝としては寛文十一年（一六七二）作「天女絵柄入半鐘」紙本着彩「涅槃絵」平瀨子掬作、「一木七薬師」天平十年作等がある。



東 光 寺

曹洞宗 慈広寺（太田）

- 一 山 号 補陀山
- 二 本 尊 薬師如来
- 三 開創年代 天文二年（一五三三）
- 四 開 基 太田美濃守 開山 傳翁大宅和尚
- 五 住 職 永野 成輝（二十二代）
- 六 浴 革

当寺は清和源氏太田持資入道灌より五代の孫である太田美濃守資元（浄泉）という人が、享禄二年（一五二九）一族郎党を従え、川副庄太田郷に下向し、その東部地区を領有し城を太田に築き田中城と号した。

浄泉は龍造寺剛忠につかえ川副東部の守りを固め、鎮守の森に太田六所宮を建立し、天文二年（一五三三）春日の玉林寺より傳翁大宅和尚を請し、開山第一世とし慈広寺を創建し、ながく香華院とした。

創建当時より明治初年までは七堂伽藍が完備し、鍋島家累代の菩提所であったが、明治維新後武家の衰亡とともに寺門も衰え、山門、庫裡、倉庫、禅堂等売却され伽藍の規模を縮小された。

その後大正九年庫裡の再建、大正十五年庫裡の増築、本堂の大修理がなされたが往時の面影を見ることはできない。



慈 広 寺

境内廟所には開基浄泉居士以下、歴代の墳墓鍋島勝茂の姉瑞光院円昌妙高大師、納富能登守家景の家臣、天正十二年（一五八四）三月島原の乱で戦死した勇士三十余名、鍋島茂貞の家臣寛永十五年（一六三八）正月有馬原城の役に戦死した当一家族の墳墓等がある。

境内には樹齢約五百年といわれる大蘇鉄の木がある。また、ビルマ仏ネカル尊像、太田家代々の肖像画、江戸平定出陣中のお供日誌等古文書がある。

黄檗宗 万福寺派 円城寺（三重）

- 一 山 号 三重山
- 二 本 尊 釈迦牟尼仏
- 三 開創年代 不詳
- 四 開 基 崇勝院 寂惠窠湛大師
- 五 住 職 吉岡 正明（十五代）
- 六 浴 革

当寺は記録等亡失し、詳びらかではないが、旧藩主鹿島鍋島直彬家より出

家し、桂巖老和尚の弟子となり崇勝院寂惠窠湛大師と号し、三百数年前当寺を建立したのを開基として伝えられている。

大師は正徳五年（一七一五）九月五日逝去された。現在の堂宇は昭和六年改築され、昭和五十六年には庫裡等



円 城 寺

が改築された。

寺宝としては、桂巖作の「兩足尊」額、「鬼子母」像、「観音」像等がある。

4 天台宗

天台宗の宗祖は伝教大師最澄であるが、天台教学の大成者は隋の天台智者大師智顛である。天台とは中国の浙江省にある山名で、智顛は久しくこの山に住んでいたから山名にちなんで天台大師と呼び、この大師の開いた宗旨であるから天台宗という。

法華玄義、法華文句、摩訶止観は天台三大部と称し、天台宗の根本宗典とされている。

延暦寺山門派 宝光院密层寺(太田)

一山号 隣江山

二本尊 不動明王

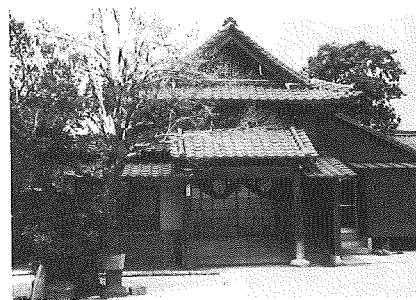
三開創年代 天文二十三年(一五五四)

四開基 龍造寺純家

五住職 倉永円宰代務(三十二代)

六沿革

当寺は龍造寺左エ門太夫隆信公のとき、寺領三百石をうけ、純家公の第三



宝光院密层寺

子源覚を中興開山とし、藩内宗門の領頭となり、堂宇を建立した。

比叡山延暦寺の九州台徒灌頂の祭場で、当国鎮護結願の道場でもあった。

慶長二年(一五九七)佐賀城の建造にあたっては第四世源昌師は比叡山より豪仙大僧正を請じて、地鎮祈禱を執行した。

次いで慶長四年(一五九九)城閣の普請竣工に当っては、城主真茂再び源昌に命じて鎮家祈禱の大典を修した。爾来藩主の崇尊厚く同寺の改築の際には数金の工費が下附された。

当寺には、天台宗根本伝教大師、真言宗開祖弘法大師合筆といわれる不動尊があり千余年前のものだと推定されている。また天保四年(一八三三)の作と思われる石造大黒天像等がある。

5 日蓮宗

本宗の宗名は日蓮上人の開かれた宗旨だから日蓮宗と呼ぶというが、日蓮自身は法華宗と称した。伝教大師の天台法華宗と区別するために、日蓮の開いた法華宗を日蓮法華宗と呼び、それが日蓮宗と通称されるに至ったのである。本宗はまた釈迦仏の所立の宗なる故に仏立宗と称し、法華の題目を唱えて即身成仏すると教えるので題目宗ともいう。本宗では法華経をもって所依の経典としている。

妙誓寺(西寺井)

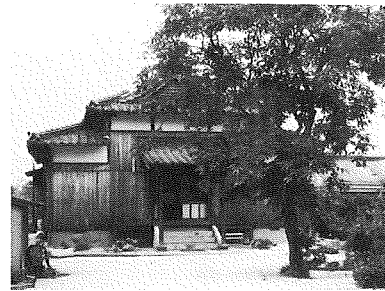
一山号 宝栄山

- 二本 尊 釈迦牟尼仏
- 三 開創年代 不詳
- 四 開 基 明教院日蓮上人
- 五 住 職 古賀 俊完（二十四代）
- 六 沿 革

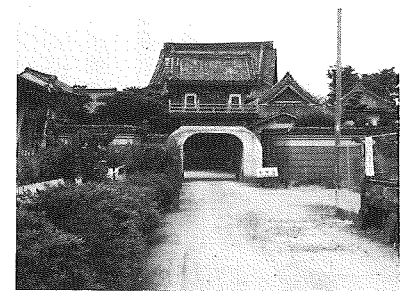
当寺の開基は日蓮上人で、寛永十四年（一六三七）島原の乱に敗れ、当地に住し一草庵を建てて友の霊を葬い、のち日蓮宗の僧門に入り妙誓寺を創建した。寛文十二年（一六七二）当国宅、松平丹後守藤原光茂朝臣建立の万部堂（開山堂）には鬼子母尊神が安置、稻荷堂には火車稻荷大明神が祭られている。堂宇は明治十二年頃修築されたが、昭和七年新に改築された。昭和八年には庫裡も新築され、その後楼門が建立された。

6 その 他

日蓮宗系では為重にあつた昌善寺移転廃寺になつた跡に安住山昌善寺祈禱所が昭和四十七年頃設置され、昭和五十二年本堂が改築、大川市より内村妙静師が出向されている。境内には旧昌善寺の歴代の墓がある。



昌善寺祈禱所



妙誓寺

(三) 廃寺、移転、合併寺院

- 加与丁
 - 広徳寺（禅宗） 廃寺 詳細不明
- 大堂村
 - 宝乘院（天台宗、延暦寺末） 明治七年以後宝光院へ合併
 - 極楽寺（春日山高城寺末） 廃寺 詳細不明
- 大堂津
 - 正福寺（浄土真宗本願寺派、宝林山、正蓮寺末） 明治七年以後他県へ移転
- 太田
 - 千乘院（天台宗 宝光院末） 宝光院合併
- 上大津
 - 清行寺 廃寺、詳細不明
 - 西光寺 廃寺、詳細不明
- 橋津
 - 廃寺、移転、合併寺院

光徳寺 廃寺、詳細不明

○徳富二区

普藏寺(天台宗) 宝光院と合併

法光寺 廃寺、詳細不明

○諸富津

永楽寺(臨濟宗 東光寺末寺 普陀楽山) 廃寺 詳細不明

○山領

光安寺(曹洞宗 慈広寺末寺) 廃寺、詳細不明

善城寺 廃寺、詳細不明

禅秀院(曹洞宗 慈広寺末寺 正覚山)

戦国時代、山領志摩守が香華院として創建、開山第一世は龍岳賢秀大和尚、それ以後は不明、墓地や当寺の

一部である観音堂等は今も現存している。

○三重

常厳寺 寛政四年以後廃寺、詳細不明

浄源寺 廃寺、詳細不明

明(妙)寺 廃寺、詳細不明

上下寺 廃寺 詳細不明

○為重

昌善寺(日蓮宗) 永享八年日親上人創建、暴風のため堂宇倒壊、再建不能のため移転。

昌寿院(真言宗高野派) 盛武主水介入道、昌寿、応安四年夏創建、維持困難なため、多聞院へ合併。

昌興寺(真言宗高野派) 盛武太郎入道、応安四年秋創建、維持困難なため多聞院へ合併。

○東寺井

神通院(真言宗高野派、金剛峯寺末、金鶏山河上山実相院觸内) 和銅四年行基の創建、古寺であったが、大

正七年三月十七日廃寺、維持困難、檀徒統一のため寺宝ともに長福寺(安竜寺)に合併。

来迎院 廃寺 詳細不明

○上下

正定院、勝楽寺、常慶院三カ寺は長福寺末といわれていたが維持困難なため廃寺。

(四) 仏教行事

諸富町仏教会

○暁天講座。毎年七月二十一日より六日間、四時半開講、町内部落公民館、寺院等十八カ所で開設。

○花まつり、南部地区、成人対象法要、夜は「釈迦」の映画を上映。北部地区、少年対象法要、毎年五月八日

部落名	名称		創設年代	沿革・由来・行事等
	加与丁	陣の内		
諸富二区	観音堂	不詳	約六十年前	上部落にあり毎年七月十七日子供達により祇園祭が行われている
橋津	野田のお地藏さん	不詳	部落の西新川樋門の横にある	野田南小路にあり、子供の水難除け、無病息災を祈願、毎年八月十三日、十五日南小路、北小路の子供達により地藏祭が行われている。また、毎年秋分の日には小路の老人達で祭が行われている
徳富二区	六地藏さん	天保年間	西小路にあり子供の水難除け、無病息災を祈願、毎年八月二十四日に西小路の子供達により地藏祭を行っている	昭和三十九年六月臨港道路拡張工事により現在地に新築、昭和四十年六月臨港道路拡張工事により現在地に新築、建武年間（一三三〇）土地の豪族諸富良継堂宇を建立、毎年七月十七日小中学生により祇園祭を行っている
不動態尊	不動尊	文久二年	毎年五月五日子供の日に部落で不動祭が行われている	
補陀楽山観音堂	建武年間			

(五) 部落別観音堂、石仏等一覧

日蓮宗、天台宗等大衆若祈願や宗派それぞれの法要が行われている。
 その他遺族会、婦人会 母子会 部落老人クラブ等では戦没者、会員物故者等の法供養が営まれている。

禪宗

曹洞宗、町外を含め十二カ寺単位で春秋二回巡番大法要、檀信徒の追悼会
 黄檗宗、臨済宗 巡番法要、施餓鬼法要等宗派独特の法要が営まれている。

町外を含め六カ寺で年一回、巡番法要、檀信徒の追悼会、御施餓鬼等宗派独特の法要を実施
 小門中（五カ寺単位）四組織
 ○宗祖聖人巡番報恩講 御文章、降誕会
 ○各寺では春秋彼岸会、御正忌、永代経等
 眞言宗
 ○南水組々報 年二回発行。
 ○少年少女念佛奉仕団 夏休期間中京都西本願寺清掃並びに見学。
 ○ほとけの子供の集い 春秋二回
 ○佛教婦人会大法要並びに追悼会毎年十月（それぞれ三日間）
 ○大会同（男子物故者追悼会）毎年五月
 町外を含め二十カ寺で「南水組」を組織、南水組行事としては、

開催。

○托鉢 南部地区、毎年二月末実施、戦前より継続されている。
 浄土真宗

東寺井	石塚	千人塚	浮盃	西場	為重	福田	山領
観音堂	千人塚	千人塚	観音堂	大師堂	観音堂	竜頭観世音	観音堂
不詳	享保六年九月	享保六年九月	不詳	昭和二十七年六月二十五日	〃	不詳	不詳
以前は上海路の小路で豆祇園が行われていたが現在は部落で祇園が行われている	往昔斬罪の地で数千人におよんだという説がある	石碑の表面には莫謂西方遠、南無阿弥陀仏三界萬靈等、唯須千念心とあり、裏面には享保六歲次辛丑九月十五日、本願施主圓達とある、享保年間大饑饉の際多数の人が餓死したので霊を弔慰するために建てられたといわれ、また	毎年八月初に部落の法供養が行われている	一名子宝観音とも呼ばれ毎月一回礼拝が行われている 毎年八月十日女子で豆祇園が行われている 毎年九月初に部落の法供養が行われている	火葬場の跡のため、仏の供養と部落繁栄のため修行大師を祀つてある、毎年四月の第一か第二日曜日に法要が行われている	旧為重公民館跡にあり、毎月十七日婦人会でお茶講が行われている	蒲原静美さんの敷地内にあり、毎年七月十八日祇園祭が行われている 野中石油店裏にあり、毎年旧七月二十八日夜子供の豆祇園祭が行われている

二 神 道

(一) 概 要

神道は日本民族固有の宗教であり、神社の祭を中心として発達して来ており、地方によって多少色彩を異にし、ながら、部落や町内や同族の年中行事として何処にも行われており、親族縁者の親睦の機会にもなっている。

この現象は神道が国教の如く行われていた時代の名残とみるべきではなく、共同社会生活に結びついた神道の性格を示すものである。

神道には外来要素を混えているが民族的で、『日本書紀』の用明記に「天皇仏法を信じ、神道を尊びたもう」とあり、用明天皇の時代は欽明天皇十三年（五五二）に仏教が伝来し、これが古来の民族的宗教と対抗して漸くその地歩を築いたばかりの時代で、仏教の伝来によつてはじめて古来の民族的宗教に反省が加わり、神道なる名称が与えられた。

要 神道はまた惟神かみかみとも古道とも呼ばれ、その内容は、わが古代宗教の全てであった。

概 日本の神は大部分人格的に把握された八百万の神祇より成る多神教を構成している。

日本人が自然を人格化して把握していることは現在の神社の祭神を検討しても知りうるが、自然神の外に氏神